

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第1部会(第3回)
2 会議の開催日時	平成25年6月6日(木) 14時00分から16時05分まで
3 会議の開催場所	市役所第二別館 第1会議室
4 出席者名	審議会委員:秋元智子委員、猪瀬良一委員、上田彰一郎委員、久野美和子委員、作山康委員、中邨登美枝委員、丸山繁子委員、茂木泰和委員、吉田貴昭委員 事務局:江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、富田昌洋、南友和、鈴木慶一
5 議題及び公開又は非公開の別	議題 ・第1回部会の主な意見について ・分野別計画(素案)について(環境・アメニティ、産業・経済) ・その他 公開又は非公開の別 公開
6 非公開の理由	—
7 傍聴者の数	1人
8 審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9 問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10 その他	

さいたま市総合振興計画審議会第1部会（第3回）議事概要

第1回部会の主な意見について確認した後、分野別計画（素案）について（環境・アメニティ、産業・経済）審議しました。

議題（1）第1回部会の主な意見について

事務局から、資料1に基づいて第1回部会の主な意見について説明があり、確認しました。

議題（2）分野別計画（素案）について（環境・アメニティ）

事務局から、資料2に基づいて次について説明があり、計画素案について審議しました。

（環境・アメニティ）

- 施策1：地域から取り組む「環境への負荷の少ない持続可能な社会」の実現
- 施策2：ともに取り組み、参加する めぐるまち（循環型都市）の創造
（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？

【主な意見】

（環境・アメニティ）

- 施策1：地域から取り組む「環境への負荷の少ない持続可能な社会」の実現
- 施策2：ともに取り組み、参加する めぐるまち（循環型都市）の創造
（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？
- ・節電と省エネという言葉が混在している。節電は夏の電気のピークカットを指し、省エネは全体的なエネルギーの削減を表すものなので、省エネに一本化してもらいたい。
- ・グリーンな市場による経済の活性化を目指してほしい。そのため「（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？」の2番目は、「省エネ・リサイクル製品」ではなく、より広義を指すように「環境に配慮した製品を購入する」に変更した方が良い。
- ・アメニティは居心地が良いという意味で、景色や色、街並みの調和なども含まれるので、都市公害からそれらを保全することでアメニティを確保する旨を記載した方が良いのではないかと。
- ・施策1の施策展開は、「（3）地球温暖化対策の推進」を最初に持ってくるとうつながりが良い。
- ・施策1の施策展開（3）は重要なことであり、市が環境先進都市として何をしていくのか期待しているが、記載内容を見ると、一般論になってしまっている。
- ・施策1の施策展開「（1）環境の保全と創造に向けた環境教育や活動の推進」について、「教員の研修会」という細かい内容まで記載すると、これしかやらないと誤解を招く可能性もある。むしろ一般の大人をいかに教育するかの方が大事である。
- ・施策1の施策展開（1）について、学校だけでなく、市民全員が生涯学習の中で

環境教育に取り組むために、機会や場づくりだけでなく、人材育成も加えると良い。

- ・環境教育に市民が参加して理解することが重要なので、施策1の施策展開（1）の1つ目に、「市民参加型の環境教育」などの文言を入れるなど、表現を考えてほしい。
- ・施策1の施策展開「（2）良好な生活環境の確保」について、騒音・振動が具体的にどこで問題となっているのか思い当たらないので、表現を再考してもらいたい。
- ・成果目標について、例えば市民一人あたりの温室効果ガス排出量4.12 t-CO₂とはどれくらいの程度を表した数字なのか説明が必要で、目標値についても設定の根拠が示されなければ、市民は納得しにくい。
- ・施策1の施策展開「（4）再生可能エネルギー等の導入促進」や「（5）次世代自動車・スマートエネルギー特区を活用した「環境未来都市」の実現」は、さいたま市が非常に力を入れていて、施策展開（3）につながる事なので、施策展開（4）（5）にある具体的な取組と地球温暖化対策とのつながりが伝わるように整理した方が良い。
- ・環境先進都市として「低炭素まちづくり」を目指すことを掲げれば、施策1の施策展開（3）（4）（5）すべてが含まれる。都市基盤・交通など他の分野にも関わるので、今後大事なキーワードである。
- ・施策1の施策展開（4）について、今後は、バイオマスなど未利用エネルギーの活用も進むと考えられるので、記載事項を加えてはどうか。
- ・施策1の施策展開（5）のタイトルや用語解説だけでは、市民にこの取組のすばらしさが伝わらない。詳しいパンフレットなどを見なくても、言葉だけで市民が想像できるような作り込みができると協働の時代の良い計画書となる。
- ・施策1の施策展開（1）の3つ目について、「環境コミュニケーション」とは何か例を挙げるなどして、具体的にイメージできる表現にした方が良い。
- ・施策1の施策展開（2）の2つ目について、光害を追加することも検討してはどうか。景観法ではサーチライトやパチンコ店のフラッシュランプの規制はできないので、市独自に行うことも必要ではないか。
- ・「循環型都市（めぐるまち）」を実現するには、市民が参加可能なまちづくりをする必要がある。例えば、施策2の現状と課題について、指定都市20市の中で6番目に少ないと書くのではなく、どの市と同等なのか分かるようにすると対策を考えやすいだろう。
- ・現在、国では3Rより2R（リデュース・リユース）を重視するようになっており、リサイクルはあくまで分別収集が大事だということなので、その点を市民にも分かりやすく書き加えた方が良い。また、可能であれば「目指す方向性」も特に2Rが重要だという記載にした方が良い。
- ・市民生活においては、3Rのうち2R（リデュース・リユース）を重視する方向に変化してきているが、産業政策では3Rのうちのリサイクルも定着している。
- ・施策2の施策展開（1）1つ目について、リデュース・リユースを説明するため、

例えばマイ箸の持参などの例示をいくつか追加すると分かりやすい。

- ・市の廃棄物処理の方向性（どのような処理を市は目指しているのか）について、国の方向性に沿って進めることでも構わないので、記載してほしい。
- ・廃棄物処理の分野は、細かく記載することは難しいので、抽象的な表現であるが意欲的な方向性が見える言葉を入れておくと良いのではないか。
- ・施策2について、事業者が排出する大量の廃棄物について、例えば、水道をつくる際に出る泥の処理や活用など、国や県と連携して対応することが必要である。
- ・循環型都市の創造というものを、市民の3Rということだけでなく、あらゆる面でしっかりと考えようという部分を目指す方向性でしっかりと打ち出し、そのうえで施策をわかりやすく明記することが必要ではないか。
- ・「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか？」について、市民と行政が共にまちをつくることをもう少し具体的に表現できると、市ならではのものとなって良い。
- ・「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか？」は、市民に対して宿題を出したのではなく、パートナーシップで進めることが受け取れるように表現の工夫が必要である。

議題（3）分野別計画（素案）について（産業・経済）

事務局から、資料3に基づいて次について説明があり、計画素案について審議しました。

（産業・経済）

- 施策1：地域の産業を守り、育てる環境の整備
 - 施策2：さいたま市の特性を生かした新たな産業の創造
 - 施策3：地域経済を支える人材の育成と就労支援
- （仮称）皆さんも取り組んでみませんか？

【主な意見】

（産業・経済）

- 施策1：地域の産業を守り、育てる環境の整備
 - 施策2：さいたま市の特性を生かした新たな産業の創造
 - 施策3：地域経済を支える人材の育成と就労支援
- （仮称）皆さんも取り組んでみませんか？
- ・産業分野でも、障害者の雇用促進という視点を持って、民間企業で働ける環境づくりの視点を持つことはできないか。障害者にとって農業分野での就労は適応があり、そのような意識をもって表現が工夫できると良い。
 - ・施策3は就職しようとしている人を対象にしているが、学生や就職後すぐに退職した人などを対象とする、働くことや生きていくことを考えるキャリア教育が大切である。そのため、施策展開（1）は「職業教育」ではなく、キャリア教育などももう少し広い視点で記述してほしい。

- ・学校教育と産業人材育成のための教育にはミスマッチがあるので、学校教育と連携してキャリア教育を進めていく視点を入れてほしい。
- ・市内の大きな事業体である市が物品調達や委託する際には、地元企業を優先する、地元調達の仕組みをつくり、地元にお金が回ると良いと感じる。
- ・施策1の目指す方向性について、今は産業の「底上げ」ではなく「革新」しなければ生き残れないので、「底上げ」という言葉は見直してもらいたい。そのため、施策展開（1）については、中小企業の主体的な取り組みを支援するというニュアンスを強く出すべきである。
- ・施策2の施策展開（2）の記述は、観光やスポーツなど比較的新しい分野のブランド開発であり、施策1のような地場のブランドについての記述が弱い。
- ・施策1の成果目標の「耕地面積」について、目標値を減少する設定としているが、地場産業を守り育てることを記述するならば、それと連動した数値で表しておくべきだ。
- ・農業よりも緑化産業と考えた方が可能性が広がる。
- ・施策1と施策2の構成を再検討する必要がある。例えば施策1は企業全般のこと、施策2は工業だけでなく商業や農業も含めて、市の特性を活かした新たな産業の創造について記載できると良い。
- ・市からの発注で地元を優先する方法として、PFIやPPP、コンストラクションマネジメントなど地元でなければできないものがあるので、これらを含めて検討してほしい。
- ・施策1について、さいたま市の観光としては、外から人を呼ぶだけでなく、市民をいかに市内で周遊させるかという視点があると良い。都市観光などの表現を加えてみてはどうか。
- ・施策2について、公民学連携で取り組むことが大事で、すでに行われているような大学との連携についても記載すると良い。
- ・急激な経済のグローバル化の中で、世界レベルで市内の産業をどうしていくかを本気で考えなければならない。
- ・「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか？」では、職住近接のさいたまライフを楽しもうといったことを表せると良い。
- ・市内中小企業のグローバルな動きや新しい発想を、具体的に捉える必要がある。
- ・産業分野は全体的に記述が古い印象があるので、言葉を含めて工夫してほしい。
- ・産業分野の構成について、施策1には従来の業種展開と地域との共生について、施策2には都市基盤、交通、福祉など他分野を実現するための産業展開について記載することが考えられる。
- ・防災性に優れていることなど、色々な分野での市の特徴を生かした新たな産業展開が読み取れる記述となると良い。

その他

事務局から、部会の第4回開催日程について連絡しました。

○6月20日（木）午後2時から 第二別館第1会議室